

LEADERSHIP CHALLENGE

大隈塾LCレポートvol.03

大隈塾リーダーシップ・チャレンジは6月17日（土）18日（日）、第3回の講義を開催いたしました。初日は自由民主党の野田聖子さん。そして公益財団法人日本デザイン振興会理事長の大井篤さんでした。大井さんの講義は、大隈塾顧問の駒井正義がファシリテーションをし、時間を延長して140分の講義となりました。

2日目は、コンディショニング・トレーナーの有吉与志恵さんです。12月のワークショップをスムーズに運ぶために、その理論編とちょっとしたワークショップを試みました。

6月17日（土）

13:00～14:30 第4回講義

講師：野田聖子さん（衆議院議員、前自民党政調会長）

テーマ：仕事で一皮むけた瞬間「チーム力を掘り起こす」

14:40～17:00 第5回講義【駒井正義担当講義】

講師：大井篤さん（日本デザイン振興会理事長）【駒井正義担当講義】

テーマ：仕事で一皮むけた瞬間「人間としての総合力と感性」

6月19日（日）

09:00～11:00 第6回講義

講師：有吉与志恵さん（コンディショニングトレーナー）

テーマ：自己管理「仕事に効く身体の整え方・コンディショニング」

4月の講義と懇親会、ホテルの部屋での「部屋飲み」。5月の田植えとBBQと火を囲んでの語り合い、翌日のトレッキングと講義。そして今回、もう受講生たちはすっかりと打ち解けあって初日からリラックスモードでした。梅雨の晴れ間のすがすがしさもあり、2日目のコンディショニングもあり、気持ちのいい6月の大隈塾となりました。

【第4回講義】

講師：野田聖子さん（衆議院議員、前自民党政調会長）

テーマ：仕事で一皮むけた瞬間「チーム力を掘り起こす」

私はいくつも法律案を作ってきたが、だいたい国会議員は他人任せ。最近は、内閣府に丸投げで作らせている人が多い。ただ、法律を作るためには、アンテナを立てて受信しなければならないが、それをしていない。とりわけ今の自民党は、てっぺんの人の顔をうかがっていて、原理原則を忘れていた感じがしている。国会議員というのは、人々から知恵をいただき、様々なものをいただきながら法律を作っていくものだと思っている。

29歳のときに国会に挑戦した。当時、自民党は盤石だった。今のように公明党の力を借りなくても、単独で国会を仕切れた。そして、消費税導入。そこでぼろぼろになった。当時の自民には男性しかいなかった。だから私は自民党から公認をもらえず、泡沫候補のまま惨敗した。

後援会はバラバラになったが、ほんの僅かの人が残ってくれた。

バッジを外した政治家はカスのようなもの。それまで「先生、先生」と持ち上げてきた、特にゼネコン関係のおじさんたちは手のひらを返してきた。

私にできるのは、後援会の名簿を頼りに一步一步、歩いてきた。

私は駅前などの街頭演説には否定的。あれは自己陶醉のようなもの。そこではリレーションは生まれない。私は一軒一軒回ってぼろっかすに言われた。

そこで、相当ひどい目にあった。一日100軒のノルマでゼンリンの地図に印を書いて回るのを三年数か月回った。9万件歩いた。

日中百件歩き、流しのおっちゃんのように、酒場に呼ばれて酒を注ぐ。当時はセクハラなんて言う言葉はなかった。当時はそれが当たり前だった。パンツを見せるとか言う人もいた。触られるのは日常茶飯事。

結果、ボトムの活動をしたことで、今は何があってもたいしたことはないなと思うようになった。

当時総裁選に出たのは、納得できなかったから。3年に一度の総裁選だけは情報公開される。そこで、いろいろとやり取りができる。そこで、国民は自民党の中身を見ることができる。だから当たり前だと思っていた。

当時、ライバルは二人しかいなかった、一人は石破茂さん。一人は岸田文雄さんというリベラルな人。でも、二人が出馬をやめてしまった。

私は25人の推薦人が集まった。そこで、猛烈な引っぺがしが起こった。まずは私の仲が良い人がターゲットになった。

そこは小選挙区の悪いところ。結果として、20人に届かなかった。19人。その一人が小池百合子さん。そこで、私と百合子さんは負け組に入った。「一緒に頑張ろうよ」と言っている中で都知事に行っちゃった。だから一人で干されているわけですが(笑)

みなさんもいつかへこむときがあると思うけど、へこむときが一番充実していた。

いい時は仮面をつけている人しか寄っていない。これは、負け惜しみではない。

成功体験はなにも残らない。失敗体験が、ちょっとやそっとじゃ困らないとなった。落ちたらその先は上がるしかない。そういう気持ちで取り組んでいただきたい。

後悔をしない。チャレンジすること。例えば子ども。子どもをうもうと思ったのは40歳だった。

そこからが苦難の連続だった。不妊治療の結果、卵子提供で今の息子を授かった。重度の障害児。当時ネット上はえらいことになった。しかし私自身はまったく後悔がなかった。だから、最高の子どもが育てられたと思っている。今は息子のおかげで充実している。ともかく自分で決めたことは初志貫徹し、どんな結果であれど、受け止めればそこからの果実はいっぱいあるという気がしている。

仕事は一人でやるものではない、私一人でやってきたことは何一つない。そんな気持ちでこれからも取り組んでいきたいと思っている。

【受講生のレポートより】



=====

有権者目線（私たちでいう顧客）と大局的な判断軸を持って、政治家をされている姿に大変感銘を受けました。当時、唯一且つ若くして女性議員となり、その中の多くの内なる戦いや葛藤が、現在の自信と信念を生み出しているものと感じました。一方で、講話を通じて、自分一人では何もできないことを理解し、周囲への協力を仰ぐことで、付加価値が生まれることを学びました。

=====

飾らない語り口で、印象的な言葉が多く、心に残った。

- ・「別にこの仕事でなくてもいい。法律は他人任せ。分からないことは分からない」隙が無いように見える野田さんの意外な一面に触れた。実に小気味よく、そして潔い。
- ・「仕事は一人でやれない、周りの人に助けてもらう」。

リーダーシップ論に只々深く共感。

- ・「来る者拒まず、去る者追わず」

人間関係に高い湿度を持たせず、良い意味で割り切り・ドライな見解に同じく共感。

- ・「大変なことは淡々とやる」

野田さんがメンターの森山議員から教わり、今でも信念とされている言葉。私自身も仕事上の心構えとしてそう言い聞かせている。

=====

私自身が理想とするマネジメントスタイルをまさに実践していると感じ、非常に感銘を受けました。具体的には、チームにおいて「任せる」こと、アピールの場を提供し「自主性を引き出す」ことです。

野田先生のお立場と自らの立場において、ルールを作る立場であるという共通点がある一方、大きな違いとしてその手法、つまり他人の力を活用することが、自身に不足していることと認識しています。共通点においては、顧客＝民意（自分の立場で言うと社員）のニーズを得るために自分の足で情報を集めること、不足していることにおいては、任せてみることで学んでいきたいと思えます。

=====

「ひと様のいうことは一過性」と決め打ち批判をものともしないメンタル、「お前しかいないんだ」の一言で初出馬を決めた判断力と男気、「政治家として法律をつくることにこだわりつづけた」とした正論、女性の活躍と少子化の話では「見えざる戦死者が増えている」ものの「政治家はインディビジュアルなものには弱い」など言葉の数々が撃ち込まれました。ボクシングでいうと細身だがしっかり踏み込む重たいハードパンチャーです。



【第5回講義】

講師：大井篤さん（日本デザイン振興会理事長）【駒井正義担当講義】

テーマ：仕事で一皮むけた瞬間「人間としての総合力と感性」

リーダーで大切なのは「危機管理」です。いい結果がでているときは俺の手柄だというやつが10人も20人も出てくるんですが、悪いときは一人も出てこない。陸軍でも攻めているときはいいんですが、敗走しているときは意外と軍曹みたいな人が前に出てくるんですね。なぜか。

それは兵法ではなくて、「感性」だと思う。そこで、参考になるお話があります。

沈没した韓国のセウォル号、イタリアのコスタコンコルティア号、その船長のとった行動がそっくり。二人とも、乗客を置いて逃げ出してしまった。本当に、船が傾いてしまった時に、どういう行動が起こせるのか。それは日頃の訓練以外の何物でもないんですね。

これと対照的なのはUSエアウェイズ機長。エンジンに小鳥を巻き込んでしまって非常事態。ハドソン川に不時着させて一人たりとも死者を出さずに生還させた。通信記録を調べたら、この状況でもまったく焦っていない。なんでなんでしょうか。

危機管理の要諦を説明します。まずは健康管理とセルフコントロール。健康管理とは、肉体と精神と社会関係。次に、感性を磨くこと。感性とは、危機を感じ取る感性のことです。基本の確認の徹底、意外とみなさん方の年代・中堅どころが一番危ないと言われているんです。

一番大切なもの以外を捨てる。それには、今重要なものはなんなのかを見極めなければいけません。そして、謙虚な心と畏れの心。合わせて、メールではなく、FACETOFACEのコミュニケーション。これがなぜ重要かわかりますか。文字とか言語情報というのは、人間の感性を感じ取ることの一部にすぎません。本来は、五感すべてを使って、ある事象を把握しています。

ハーバードビジネスレビューという本の中に、経営者の4分類というのがあります。経営者には4つの種類があります。一つは先延ばし型。二つ目は髪振り乱し型。毎日の課題に目を奪われる人。三つ目は超然型。四つ目は目的意識型。最後が大切です。僕は、目的意識型にデザインシンキングマインドを足すと良いのではないかと考えています。

今、働き方改革が取りざたされていますよね。過労死が問題になっていますが、マネジメント能力の不足だと思っています。アメリカのある人は、目標を作った時に、そのすり合わせに半日くらいかかると言っています。日本は、正直マネジメント能力では外国に勝てないような状況です。

日本って、忖度しあって調和的にやれてしまう文化的土壌があります。一方、異民族から成り立っている国は忖度なんてできません。日本はマネジメントがしっかりしなくてもいい国なんですよ、ある意味優秀なんです。これは僕の印象ですが、日本は他国と比べて、上位者の偏差値は低いが、平均的な能力が高い。そこで日本はもっているんじゃないかと思う。カルロス・ゴーンはすごい給料をもらっているというけれど、200人くらいの部長よりも彼一人のほうがいい仕事ができるくらい優秀だと言われている。

異能な人をどうマネジメントするか。それは、好き嫌いで判断しないことです。ものすごく変わった人物だけど、高い集中力で成果を出す、という人がときどきいます。わたしの会社にもいましたが、私は好き嫌いの感情を落として、組織のためにどう役に立てるか考えてみました。そして、コミュニケーションをとるようにしました。聞き出してあげると、その人の言葉がわかるようになる。今から思い出すと、「あの人は先見の明があったなあ、なのに聞き取れなかった」という人もいます。いちばん危険なのは金太郎飴の組織です。これは生物学的に言ってもそうです。多様性の中には異能が入っていないといけない。

【受講生のレポートより】

=====

ビジネスイノベーションは①多様性、②異能を受けれることで生まれる、人事は伸びるヒトを登用することが大切との言葉はマネージャーとして「好き嫌い」の判断でなく、適材適所で、その人間が活躍する場を与えることが必要だと学びました。その為には、固定観念に捉われず、寛容な気持ちを持って、コミュニケーションを取ることを心掛けていきたいと思います。



=====

リーダーシップの話からAIに至るまで広範囲のテーマだったが、内容もよくわかり（サラリーマン川柳とか工夫が施され）、楽しく拝聴させて頂いた。経営者の4分類は中間管理職にも当てはめ可能だと思うので、折に触れて自分の仕事振りに照らし合わせ、反芻したい。

=====

第1回（特に駒井さん）のお話も踏まえながら、再度リーダーシップについて整理する機会になりました。「内（自分）」と「外（他人）」の視点で考えています。

「内」・・・まず楽しむこと。自ら楽しめなければ、他人は幸せにできない。

正しい努力をする。自ら携わる仕事を本質から理解する。そして謙虚さを忘れない。

心身ともに健康を保つ。感性を磨くことにも繋がる。重大な判断（危機管理）において、発揮される。

「外」・・・大言壮語でも良い。退路を立つ。戦う姿を周囲は見ている。

視野を広げる、広げさせる。上位概念、組織の目標を意識させ、きちんと評価する。

組織の活性化のために、ダイレクトコミュニケーションの総量を増加させる。「感情の情報」の重要性を忘れない。

=====

大井さんは8年間のご経験から民間マインドヘシフトしているということでした。日本の行政における規制が包括的過ぎで、明確な禁止項目がないがためにグレーゾーンが存在することに言及されていました。ここに組織間の価値観の偏差が生じていて感性によってはビジネスチャンスとしての活用機会となる得ることを示唆されていたのではないかと感じました。

【第6回講義】

講師：有吉与志恵さん（コンディショニングトレーナー）

テーマ：自己管理「仕事に効く身体の整え方・コンディショニング」

たくさんの企業に健康に関してヒアリングして分析をしたところ、体調は仕事に大きく影響していた。しかも、生活習慣が一番大きく影響している。かつて成人病と言われていたものが、生活習慣病と言われるようになった。生活習慣は本当に私たちの健康に影響しているおり、例えば、シャワーだけでお風呂につからない、という入浴習慣は、身体から老廃物をでにくくする。座っている姿勢、立っている姿勢がわるいのは、筋肉がアンバランスだからそうなるのだが、筋肉のバランスが取れていないと脳に影響が出てくる。テレビでも12時以降に寝るのはよくないと紹介されていたが、このような細かなことが健康に及ぼす害が大きくなっている。

アタマではわかっているけど、実生活では実践できない、というより目を背けている人がほとんど。50あたりなどの後から健康が悪化する。厄年でもある42歳は注意すべき。女性は50歳前後で変化が来る。しかし、身体は徐々に老化するが、筋肉の老化は止めることができる。筋肉は何歳になっても変えられる。

整えるとは、リセット・コンディショニングとアクティブ・コンディショニングがある。リセット・コンディショニングは、いわば「寝返りの原理」の体験のこと。寝返りは脳からの発信で身体が動いているのではなく、身体を本能的に動かしている。そうすることによって、身体の筋肉をリセットしている。安全を守るための反射作用である。

アクティブ・コンディショニングとは筋トレのこと、意識的に体を動かすことで大切なのは、「知識」、「意識」、「無意識」の3つ。

なぜ大切なのかを知り、意識的になると原理原則とともに動かしたい筋肉を利用できる、原理原則に沿うことはすべての筋肉をバランスよくつかえることになる。

アクティブ・コンディショニングで筋肉を再教育する。そのためには、正しい呼吸をすることが大事。というのは、ヒトは一日2万回呼吸しているし、その呼吸で身体を安定させているから。哺乳類の中で、生まれてから立ち上がるまでに最も時間がかかるのは人間。赤ちゃんの泣くという動作は、強制的に息をさせていること。そのことで首を支える筋肉が鍛えられる。それで、首がすわる。首がすわれれば、ハイハイする。呼吸をしながらのハイハイは、コアの筋肉と背骨骨盤をトレーニングして、二足歩行で暮らすための中心軸をつくってくれる。コアトレは身体の軸を意識をすることから始まる。

【受講生のレポートより】

=====
スポーツ選手同様にビジネスマンにとってもコンディショニングが大変大切であることを学ぶことが出来、大変勉強になりました。特に、姿勢を正しくして歩くことにより、見える世界が変わり、そして気付きが生まれるとの言葉からも、正しい姿勢を意識して、何れ無意識になるようになりたいと思います。

=====
男性は42歳で厄年を迎えたあたりで、体調に変化が訪れるというのは知らなかった。完全に油断していた。また不調には原因があることも、腰や背中の張りは内臓が原因、何となく疲れやすいのは肝臓が弱っているからかも知れないと、覚えておきたい。

1時間半の講義だったが、自己管理についてきちんと向き合うきっかけになった。



=====
早速ですが、両足（特にふくらはぎから下）の血行が良くなったことを体感しています。
私の場合、姿勢が今回の講義で出てきた方と同様に丸まっているため、今回教えていただいたことを実践して素敵なビフォーアフターを完成させたいと思います。
継続のためにも、今回参加した社内のメンバーと相互の動機付け（もしくは監視）を行っていきます。

=====
江戸時代に「馬は疲れるけど飛脚（人間）は疲れない」といわれていたことから、人間の体の可能性を人間自身が理解しなければいけないことに気づかされました。
体力の衰えを痛感する昨今、仕事の効率向上を実現するために社内メンバーで秋に駅伝を企画していた折、金言ばかりのご講義ありがとうございます。一人だけでなく社員が自分のマネジメントをそれぞれが管理出来れば企業が効率化で得れるメリット効果は計り知れません。口だけでなく実施していくことしか自分の体では表せないため、まずは自分を、そして周囲を。12月を楽しみに励みます。



大隈塾リーダーシップ・チャレンジレポート vol.03

2017年6月26日発行（通算34号）

大隈塾事務局（一般社団法人ストーンスープ）

村田信之 mura@ta2.so-net.ne.jp

153-0044 東京都目黒区大橋2-16-35

tel:050-3558-7527

mail:ookuma_school@stonesoup.tokyo